会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	令和７年度　第１回高松市地域部活動検討委員会
開催日時	令和７年８月１日（金）１４時００分～１５時４５分
開催場所	高松市役所　１１階　１１０会議室
議　題	１．委員長の選出について ２．部活動地域展開にかかる国の動向について ３．令和７年度の取組について ４．高松市地域クラブ活動基本方針（仮称）の骨子（案）と本市の目指す姿について ５．今後の進め方
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	米村委員、北堀委員、宮脇委員、倉山委員、三好委員、辻委員、大西委員、近藤委員、西山委員、臼井委員
傍聴者	２人（定員３人）
担当課及び連絡先	保健体育課　087-839-2657

会議の経過及び結果

会議公開の確認、教育局長挨拶及び新委員の紹介の後、以下の議題について協議した。

（３－１）新委員長の選出について

高松市地域部活動検討委員会設置要綱第５条第１項及び第３項の規定に基づき、委員の互選及び委員長の指名により、委員長及び職務代理を決定した。

委員長　　米村委員
職務代理　仁谷委員

（３－２）部活動地域展開にかかる国の動向について

事務局から説明（参考資料Ｐ６～Ｐ１３）

（３－２）についての質問

（委員長）
地域クラブ活動の展開と言葉が変わったが、それに伴って趣旨がどのように変わったのか。

（事務局）
最終とりまとめで「改革の理念」として、「将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実する」ということと、「地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障する」ということが示された。

さらに、部活動の教育的意義を継承・発展させるというところで、「新たな価値を創出する」ことが重要とされている。

（委員長）
これまでの部活動というのは、例えばスポーツであれば、大会に出て上の大会を目指すという形、文化部の方でも、コンクールに出て上の大会を目指す形のものが多かったが、それだけではない、

もっとスポーツ或いは文化側面の多様な価値観を創出できるような活動がこれから求められるという理解で大丈夫か。

（事務局）

はい

（委員）

地域クラブ活動の認定は、どのような認定制度を考えているか。

（事務局）

国から認定要件がまだ示されていないので、国から示される認定要件をふまえ、本市として、クラブの認定要件を決めていこうと考えている。

（委員）

それが決まった後、認定クラブの要項が出て、そのあとクラブやスポーツ少年団というものが認定されて、活動が始まるというイメージで良いか。

（事務局）

クラブが認定されて活動が始まるというよりも、地域クラブとしてはいろいろなあり方があるが、要件の認定を受けていただければ、「認定地域クラブ」としての活動ができるということであり、認定を受けていないと地域クラブ活動ができないというのではない。

（委員長）

また、逐次、いろいろ情報更新されると思うので、しっかり情報収集をして、対応できるようにしていただければと思う。

（３－３）令和７年度の取組について

事務局から説明（資料２　令和７年度の取組について　Ｐ１～Ｐ５）

（３－３）についての質問

（委員）

国は、休日の地域展開を掲げていると思うが、全国的な動きの中では、休日だけ指導者が変わることは現実的でないということで、平日と土日をパッケージとして動いている市町もたくさんあると思うが、高松市はどういう見通しなのか。

（事務局）

まだこれからにはなってくるが、国が示しているから土日というわけではなく、今のところは、平日も含めて、どういう形がベストなのかを検討している。

（委員）

学校の困り感を十分共有化できていると思うが、高松市の学校が置かれている状況としたら、問題は非常に複雑で多様化している。教員の配置でいうと、学校生徒数の減少によって、教職員数が減っている。しかし、部活動を閉じることは難しく、本校でも１人で見ている部活動がある。

教職員数の減少による部活動の廃止を全ての保護者に理解していただくことは難しいと感じている。

さらに、教員の働き方の多様化で、時短勤務の人や、育児短時間勤務の人もおり、部活動の時間にはいない先生がたくさんいる。産休育休代替の人も配置をしていただき、授業は本当に助かっているが、20 時間講師とか 30 時間講師の方の配置のため、その人達に部活動を見ていただくことは難しい。だから残りの先生方で、本当に厳しい中で何とかしのいでいる状況である。

平日の放課後の大変さというものを十分理解した上で、土日とパッケージで考えていかないと、学校の部活動の課題というものは解消しないというのが、校長会の認識である。

（事務局）
昨年までの会議でのコーディネーターからの報告でも、休日と平日で指導者が変わることに対する不安感があるということは伺っているので、それも含めて検討していく。
（委員長）
実証事業の取組の中で、平日と休日とで分けているので、そこの平日担当の部活動指導者と、休日に行う地域指導者の方とのコミュニケーション方法を実証事業の中で検証の対象として、入れていただければいいかと思う。
平日と休日の練習の質の格差を生じてしまう可能性もあるし、子供たちの人間関係の背後関係を知らないままに休日の指導を行い、トラブルがより悪化する可能性も考えられるので、そういうことも含めて、今回の実証事業の中に、平日と土日の連携ということも対象として入れ込んでいただければと思う。
（委員）
部活動指導員も、今年30名で予算を取っていただき、とてもありがたい。私の勤務している中学校では6人ぐらい配置していただいており、この方々がいるから成り立っている。
他の学校でなぜ部活動指導員の採用が進まないのかというのは、保健体育課としてどう捉えているのか。
30人の予算をとっているが、基本的には地域の実情をよくわかった各学校で探してくださいというスタンスは変わらないのか。
（事務局）
県の人材バンクや高松市スポーツ協会とも連携しながら、こちらも探していくが、現実問題としては、地域を把握されている校長先生の力が非常に大事なところだと思っている。
1 つ問題なのが、部活動指導員が高松市の会計年度任用職員となるため、任用するにあたって、その方が本業でされている勤務との兼ね合いで任用できなかったということがあった。学校が探す限界と、こちら側がマッチングできる限界に行き当っているところがある。
（委員）
非常に厳しいことを言うが、運動部活動1つ文化部活動1つで、モデル事業をしているタイミングではないと思う。この状態で、1年後2年後に20数校が全て地域展開しているかというのは、あまりにも無理なスケジュールだと思っている。
もっと具体的に、各学校でどれぐらいの教員が部活動しても構わないと思っているか調べ、どの競技にどれぐらい指導者が足りないから、その人たちをどうやって市教委と校長会が人を探していくか、それを全ての学校でやっていく時期がきていると私は思っている。
（委員長）
指導者は必ず出てくる問題だと思う。ボランティアでやっていた方が地域部活動の指導者となったときに、それをどう活用するか、活用しないのかも含めて、その辺の可能性も検討していかなければならない。
部活単位でＯＢ会や保護者会で何かやっているところはいくつかあると思うので、情報収集をしておいてもいいと思う。
学校の先生だけでは限界は間違いなくくると思うし、部活動をやりたい教員は減ってきている。
そういう意味でも、これからのことを考えながら人材の検討の方をよろしくお願いしたい。
本年度は、この部活動2校の実証事業に取り組みながら、検証していただければと思う。

（３－４）高松市地域クラブ活動基本方針（仮称）の骨子（案）と本市の目指す姿について

事務局から説明（資料３　高松市地域クラブ活動基本方針（仮称）の骨子（案）　及び
資料４　本市の目指す姿　令和７年度の取組について　Ｐ１～Ｐ６）

（３－４）についての質問

（委員長）

資料３、資料４と、たたき台としてアイデアを出していただいている。

昨年度までの大きな目的は、部活動をどう地域に移行するかということだったが、部活動の今までの機能を生かしつつ、どう発展させていくかという方向づけが出てきているので、そういう観点からまた議論を改めて加えていただければと思う。

（委員）

高松市の西の端の地域で、そこから移動して活動に参加することになる。そうなると、16 時に保護者が送り迎えできるのか。平日は難しいとなれば土曜日だけとか、日曜日だけとなるが、それも送迎できなかったら、子どもたちは自分の自転車で通える地域クラブしか参加できない。

そうなれば、地域クラブに参加できなかったり参加しない子たちの受け皿をどうするかということになる。電車で行けるといってもお金がかかる。

また、これまでは、教員が大会に参加するときに引率をして、運営にも関わってきた。これが地域クラブに移行したら、大会引率はしないし、大会の運営にも関わらない。そうなると、大会とかコンクールが運営できるのか。

音楽会は、今年で最後となる。なぜなら、参加する学校数が減ってしまい、部員が集まらない上に、それを運営できる教員がいない。縮小の方向になっている。

部活動が好きな人だけ、一部の人だけ関わるようになると、その人たちだけに負担がかかるようになり、やがて離れていってしまう。

高松市として、部活動は、推し進めていく方向なのか。地域展開だから、部活動は学校はしなくてもいいという方向なのか。

（事務局）

学校で部活動を継続するのが難しくなっており、部活動の数が減ると、子供たちも好きな活動ができない。今の部活動を継続するのは難しいというところから地域クラブ、地域展開という発想が来ている。今までの部活動をそのまま地域クラブ化するというのは難しい。

練習の回数等は調整が必要であるし、活動場所も、スポーツであれば集まらないといけないので、近隣の学校が集まって拠点校みたいな形での活動もあるだろうし、文化であれば、平日はオンラインで活動し、土日だけ集まるような活動とか、活動形態というのも様々なものが考えられる。

皆さんの御意見をいただいて、市の様々な部署と協議しながら、方針を出していく。

（委員）

保護者に関しては、部活動の地域展開という状況は全く知らないので、小学５、６年生あたりから、かなり問い合わせがある。

この理念にあるような、誰もが気軽に多様な経験を楽しむではなくて、その道を究めたいトップ選手は、民間の強豪クラブに行っている。お金をたくさん払って、親が送迎から全部やっている。それ以外のそこそこ頑張りたいっていう人が、悩んでいる状態である。

（委員）

子供は、やりたいことがなくて部活動に加入しないのか、それとも他にやりたいことがあって加

入しないのか、子供のニーズについてどこまで把握しているのか。
　中学生や小学校高学年の子が、農業や経済をやりたいと思っているのかどうかを含めて、確認が必要だと感じる。
　今は、大会後に中学校３年生が引退するが、引退のない状況にしていくということに対して、保護者としてはどう感じるのかも確認が必要だと思う。
（委員）
　トップ選手は、総体が終わってから、部活動に籍を置いたまま民間のクラブに行って冬の大会を目指すというような流れがある。
（委員）
　音楽の場合は、先に進みたい子は高校の音楽科を目指す。
　吹奏楽部は、自分で楽器を持たなくても中学校が貸してくれる。メンテナンスやトラックで楽器を運ぶにもものすごくお金がかかるが、全部学校が見てくれるから、保護者としては非常にありがたい。地域展開が進まない理由でもある。
　楽器の保管場所や修繕費等、吹奏楽部はもうひと工夫が必要かもしれない。
（委員）
　地域クラブ活動を、希望している子供たちに総合的に提供したいが、すべての人が月謝を払って送迎が完全にできるかというと、多少の格差があるかもしれない。
（委員）
　横浜でも、部活動を残して欲しいという一定の保護者の強いニーズはあると聞いている。地域クラブと部活動を完全に切り離すのは難しいのではないか、共存しながら行くしかないのではないか。
（委員長）
　部活動と連携を取りながらやっていくことの方が、今後のあり方としては現実的じゃないかといった御意見が出ている。
　仲間と一緒にスポーツ・文化活動をし、保護者からすると負担のない状態で、そういう機会を与えて欲しい。部活動は、居場所作りもあると思う。
（委員）
　他の都道府県でもいろいろな事例や意見が出ているが、地域によって実情に差があるため、どこのやり方がいいのかというのは、なかなかない。「明日から部活動がなくなるけどどうする」ぐらいの強いアプローチで全中学生に聞いてもらいたい。
　いくら机上で議論しても、実態がどうなっているか掴めていないのに、1 歩進めるのは非常に難しいと思う。
（事務局）
　今後の地域クラブ活動がこうなればいいというポイントを、お聞かせ願いたい。
（委員）
　身近な地域で〇〇がしたいっていう子供の願いに寄り添う、それだけだ。
　近くの中学校で剣道がしたい、サッカーがしたい、その環境を大人が作る、それだけだ。
（委員）
　一番考えなければならないのは、子供のことだ。
　いろいろな課題や問題が、これからも出てくると思う。高松市の方でもこの一大プロジェクトについて人員配置や予算取りをぜひして欲しい。

（委員長）

この理念に関しては問題ないと思う。具体の道筋のためのプロセスをどう作っていくかっていうところに、そろそろ着手しなければいけないのではないか。

ぜひ他部署とも協力体制を作っていただき、理念が具現化できるように、いろいろ手を尽くしていただきたい。

（３－５）今後の進め方

事務局から説明（資料５　今後の進め方　Ｐ１）

（委員長）

校長会の先生方ともうまく連携を取りながらやっていければ思う。

本日の議題は以上ですべてとなる。

（閉会）